



インターネットでの情報提供	
提供予定日	2月8日



平成26年2月7日(金) 県政記者クラブ・中津川記者会・恵那記者会配布資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
恵那農林事務所	農業普及課	松本 政行	0573-26-1111 (内線 384)
中山間農業研究所	中津川支所	長谷川雅也	0573-68-2036

## 「恵那農林事務所農業普及課及び中山間農業研究所 中津川支所合同成果発表会」の開催について

県では、農業の振興や農業者の所得向上を目指し、農業を取り巻く諸問題に的確に対応した新たな技術開発を行うとともに、生産現場への迅速な普及を図っています。

このたび、研究開発と生産現場への普及を支援する二機関が一体となって中山間農業の振興を進めることを目的として、下記のとおり「恵那農林事務所農業普及課及び中山間農業研究所中津川支所合同成果発表会」を開催します。

### 記

- 1 日 時 平成26年2月13日(木) 13:30～16:20
- 2 場 所 恵那文化センター 集会室  
(恵那市長島町中野414-1 電話:0573-25-5121)
- 3 参集者 約120名 農業者、農業関係団体・市町村職員等
- 4 発表内容

#### ■恵那農林事務所農業普及課 活動発表3課題 (13:45～14:45)

課題名	発表者
恵那地域における飼料用米の生産拡大と定着への取り組み	<small>ふかいまきみ</small> 深井雅己 技術主査
「ぼろたん」をクリ産地拡大強化の起爆剤に！ ～東美濃ぼろたん研究会活動の取り組み～	<small>いそむらひであき</small> 磯村秀昭 技術主査
夏秋なす収量性向上にむけて ～恵南なす生産組合への取り組みを中心に～	<small>わたなべひろゆき</small> 渡辺博幸 技術主査

#### ■中山間農業研究所中津川支所 試験研究成果発表5課題 (15:00～16:20)

課題名	発表者
ナス台木を利用したトマトのセル苗直接定植技術の開発	<small>くまざき あきら</small> 熊崎 晃 主任専門研究員
クリの凍害発生抑制技術の開発 (第二報)	<small>かみおしんじ</small> 神尾真司 主任専門研究員
農薬によらない水田除草方法の検討	<small>くまざわりょうすけ</small> 熊澤良介 主任専門研究員
シクラメンの省エネ低コスト生産技術の開発	<small>あさの ただし</small> 浅野 正 主任専門研究員
岐阜県内任意地点の気象実況値を推定できるパソコンソフトの作成	<small>やまもとよしふみ</small> 山本好文 主任専門研究員

## 恵那農林事務所農業普及課活動発表要旨

### ◆恵那地域における飼料用米の生産拡大と定着への取り組み

ふかいまさみ  
深井雅己技術主査

最近にわかに脚光を浴びている飼料用米ですが、恵那地域では平成 20 年から生産者、畜産農家、関係機関が一体となって、飼料用米の生産と恵那地域内の畜産農家での利用を進めてきました。地域の水田が有効活用され食料自給率の向上にもつながる飼料用米生産ですが、取り組みを続ける上では販売先を確保し生産コストの引き下げを図る必要があります。そこで、農業普及課がこれまで実施してきた支援活動と成果、今後の展開について報告します。

### ◆「ぼろたん」をクリ産地拡大強化の起爆剤に！ ～東美濃ぼろたん研究会活動の取り組み～

いそむらひであき  
磯村秀昭技術主査

東美濃クリ産地では、「産地拡大プロジェクト」によりこの 7 年間で栽培面積が 2 倍増となり、出荷量においても 1.5 倍増をめざし活動に取り組んでいます。このプロジェクト推進の半ばに登場した画期的な品種「ぼろたん」に注目し、産地では研究会組織を立ち上げ栽培を始めるとともに PR 販売も併せて取り組み、渋皮が剥ける特性等を活かした高単価販売が実現しています。そこで、「ぼろたん」を産地拡大の起爆剤に位置付け取り組んできた 5 年間の研究会活動、特に付加価値づくりや販路開拓の取り組み成果等について報告します。

### ◆夏秋なす収量性向上に向けて ～恵南なす生産組合への取り組みを中心に～

わたなべひろゆき  
渡辺博幸技術主査

恵南地域は県内有数の夏秋なすの産地で、市場からの品質評価は高く、さらなる出荷量増を求められています。しかし、近年は高齢化等により生産者数が減少し、それにとまなう出荷量の減少が懸念されています。そこで、今回は特に収量性向上が期待される「恵南なす生産組合」への支援を中心に、農業普及課のなす担当者が「なすチーム」として産地規模維持、生産者の所得向上をねらいとして実施してきた支援活動について報告します。

## 中山間農業研究所中津川支所試験研究成果発表要旨

### ◆ナス台木を利用したトマトのセル苗直接定植技術の開発

くまざき あきら  
熊崎 晃 主任専門研究員

夏秋トマトの生産において、9、10月の出荷を目的とした作型は労力分散、経営安定に有効ですが、育苗、植え付けが通常作型の繁忙期と重なり導入への課題となっています。今回、トマトに対して台木になすを用いることにより、土壌病害である青枯れ病の発生を大きく抑制するとともに、セルポットで育てた小さな苗（セル苗）を直接土に植え付けても順調に生育し、収量も安定した高品質なトマト出荷が可能となりましたので成果を報告します。

### ◆クリの凍害発生抑制技術の開発（第2報）

かみおしんじ  
神尾真司主任専門研究員

東美濃地域を中心としたクリ産地で大きな問題となっているクリ樹の凍害に対して、平成23年度から兵庫県、独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所及び同機構 近畿中国四国農業研究所と共同で発生抑制技術の開発に取り組んでいます。昨年度に報告した凍害発生危険度を判定する手法に引き続き、本年度は土を高畝にし、土壌被覆を組み合わせて凍害の発生を抑制する技術を検討しましたので、その成果を報告します。

### ◆農薬によらない水田除草方法の検討

くまざわりょうすけ  
熊澤良介主任専門研究員

農薬や化学肥料を使わないで栽培される農産物への関心や需要が高まる中、水稲栽培においては雑草対策が最大の課題となっています。そこで、除草剤を使わない除草技術について、有機質肥料を用いた栽培での除草効果について検討しましたので成果を報告します。

### ◆シクラメンの省エネ低コスト生産技術の開発

あさの ただし  
浅野 正 主任専門研究員

これからのシクラメンの経営において、生産コストの低減は産地の継続発展に不可欠な課題です。今回は、高品質を維持した上で、栽培管理作業の省力化や暖房・施肥のコスト低減の可能性について栽培技術と品種特性の両面から探りましたので、これまでに得られた成果を報告します。

### ◆岐阜県内任意地点の気象実況値を推定できるパソコンソフトの作成

やまもとよしふみ  
山本好文主任専門研究員

気象庁が開発したメッシュ気候値と同庁がホームページで公開しているアメダス観測値を用いて、アメダス観測地点がない岐阜県内任意地点における日毎の気象値の推定を可能にするパソコンソフトを作成しましたので概要を報告します。これにより、任意の地点における農作物の栽培適否や栽培可能期間の推定、あるいはきめ細かな気象条件の影響評価等に利用することができます。

